

## F<sub>1</sub> カンパニユラ ラピド

学名: *C. carpatica*

種子粒数の目安: 1,400 から 1,700 粒/グラム

### 開花要因:

- 宿根時の USDA 耐寒指標: 3 から 8(最低温度 -40°C)
- 日長時間との反応: 14 時間の長日条件が必要
- バーナリゼーション: 不要

### プラグ生産ステージ

#### 培地

水はけがよく、ピート主体の新しい培地を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、EC は 0.75mmhos/cm とする

#### 播種

288 穴、あるいはそれよりも容量の大きなトレイに 4 粒播きする。覆土はしない。栄養生長を促すため、13 時間よりも短い日長条件に置く。立枯れ防止のため、殺菌剤を散布する

ステージ 1 - 播種には 7 から 9 日を要する

地温: 18 から 22°C

光条件: 発芽時に光は必要

水分: ステージ1では水分レベルをやや湿潤(level 4)に維持する

湿度: 幼根が発生する頃までは相対湿度を 95 から 97%で維持する

ステージ 2

地温: 18 から 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 水分レベルを下げ、適度な湿潤(level 4)から標準(level 3)にして、根の生長を培地中で促す

肥料: レート1(100ppm(N)以下、ECを0.7mS/cm以下)の濃度で、リン酸の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

地温: 16 から 18°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 標準(level 3)から適度な湿潤(level 4)の範囲で循環的に繰り返しながら管理する

肥料: 肥料の濃度をレート2(100-175ppm(N)、EC値0.7-1.2mS/cm(1:2))に上げる

PGR(矮化剤): 矮化剤は不要である

ステージ 4

温度: 16 から 18°C

光条件: 54,000 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ3と同様

肥料: ステージ3と同様

### 鉢上げから出荷まで

#### コンテナサイズ

10 から 13cm: 1 株移植/ポット

15 から 18cm: 2,3 株移植/ポット

#### 培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC は 1.0 から 1.2mmhos/cm)の範囲とする

#### 温度(最適温度)

昼間温度: 16 から 18°C

夜間温度: 10 から 14°C

注意点 10°C以下の低い夜温条件では、葉がカールしたりしわが寄ったり障害が現れることがある。20°C以上の温度では生理的に花が小さくなる

#### 光条件(照度)

適正な温度域で管理されている限り、できるだけ高く維持する。

#### 日長時間との関係

ラピドは長日条件で開花する品種である。開花に際しては、花芽が確認できるまで 14 時間以上の日長時間が必要

ラピドの花芽は長日条件のもとで誘因されるが、場合によっては株がで上がる前にすでに花芽をつけてしまうことがある。そのため、プラグ育苗期間中は 13 時間以下の条件で管理することを推奨している。さもなければ、余分なプラグを 1,2 本より大きなポットサイズへの移植が必要となる

#### かん水

培地はは標準(level 3、茶褐色あるいは黒褐色の色調)を維持する

#### 肥料

ラピドは概ね適度な肥料供給を必要とする品種である。レート2(125-175ppm(N)、ECは1.0-1.2mS/cm)の肥料を適宜与える。

#### PGR(矮化剤)

適切な条件で管理されている限り、矮化剤は概ね不要である。必要な場合は、サイコセル 750ppm が有効で、1,2 回の処理で十分な効果がある

#### ピンチ

ピンチは不要である

## 平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 7 から 10 週

移植から出荷まで: 8 から 12 週(適切に長日条件のもとで管理された場合)

播種から開花まで: 15 から 22 週

## 病例等

害虫: ハダニやアブラムシなどに注意

病気: ボトリティスやピシウム、リゾクトニアなどに注意

## 注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

**EC 値について:** EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。